

用語の解説

あ

▶ アピアランスケア

医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見（アピアランス）の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのこと。

い

▶ 院内がん登録

医療施設内のがんの診療の評価を目的に、その施設のがん患者を登録し、治療実績や生存率等を集計・分析するもの。がん診療連携拠点病院では、その実施が義務付けられている。

か

▶ 肝炎ウイルス

ウイルスは細菌より小さく、電子顕微鏡でやっと見ることができるといわれる最も小さな生物。ウイルスの中には人に病気を起こすものもあり、B型肝炎を起こすウイルスをB型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎を起こすウイルスをC型肝炎ウイルス（HCV）という。

▶ がん診療連携協議会

がん医療の質の向上やがん診療連携拠点病院の連携強化を図るため、都道府県がん診療連携拠点病院に設置が義務付けられている協議会。

▶ がん診療連携拠点病院

全国で質の高いがん医療を受けられるよう体制を確保するため、各地域の拠点として厚生労働大臣が指定した医療機関。都道府県内でがん診療の連携体制等の中心的な役割を担う「都道府県がん診療連携拠点病院」と二次保健医療圏ごとの設置を目標とする「地域がん診療連携拠点病院」の二種類がある。また、国指定とは別に県独自に指定制度を設けている。

▶ がん登録

「がん登録等の推進に関する法律」が平成 28（2016）年に施行されたことにより、これまで都道府県が独自に取り組んでいた「地域がん登録」から国が一元的に情報を集約する「全国がん登録」に移行した。「全国がん登録」は、国内におけるがんの罹患、診療、転帰等に関する情報をデータベース化し、それを活用することにより、がん医療及びがん検診の質の向上並びにがん予防の推進、国民に対するがんに関する情報提供の充実、その他のがん対策を科学的知見に基づき実施することを目的とする。

▶ 緩和ケア

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の早期から、痛み、身体的問題、心理社会的問題、精神的な問題に関してきちんとした評価を行い、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、QOL（Quality of Life、生活の質）を改善するための方法。単に身体症状のコントロールだけでなく、心のケアも同時に行い、患者のQOLを総合的に高めることを目的とするもの。

▶ 緩和ケアチーム

がんの療養中に生じる、痛み、吐気、呼吸困難などの身体的苦痛、また不安感、抑うつなどの精神的苦痛の緩和が必要な患者に対し、専門の医師と看護師が中心となり、各診療科の医師、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、栄養士、ソーシャルワーカー等が支援するチーム。

▶ （広島県）肝疾患患者フォローアップシステム

肝炎ウイルスが陽性と判定された方を、継続的かつ適切な検査や治療につなげることを目的に、医療機関・保健所・市町と連携して広島県が運営するシステム。

き

▶ 希少がん

概ね罹患率人口 10 万人当たり 6 人未満。人数が少ないため、診療・受療上の課題が他のがん種に比べて大きいがん種。

▶ 強度変調放射線治療（IMRT）

コンピュータ制御により腫瘍部分のみに放射線を集中して照射できる技術。これによって、従来法では不可能であった理想的な放射線治療が可能となり、腫瘍制御率の向上や合併症の軽減が期待できる。（Intensity Modulated Radiation Therapy: IMRT）

▶ 均てん化

どこの地域でもがんの標準的な専門治療が受けられるよう、医療技術等の格差を是正すること。

く

▶ 苦痛のスクリーニング

診断や治療方針の変更の時に、身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛など、患者とその家族にとって重要な問題でありながらも取り上げられにくい問題について、医療従事者が診療の場面で定期的に確認し、話し合う機会を確保すること。

け

▶ ゲノム医療

個人の「ゲノム（1組（ヒトでは 23 本）の染色体の DNA に含まれるすべての遺伝情報）情報」をはじめとした各種「オミックス（様々な網羅的な分子情報をまとめた情報、知識、集合のこと）検査情報」を基にして、その人の体質や病状に適した「医療」を行うこと。

▶ 経皮的冠動脈インターベンション（PCI）

狭心症や心筋梗塞など虚血性心疾患に対し、冠動脈内腔の狭くなった部分にカテーテルを使って広げるなどの治療法。

こ

▶ 高精度放射線治療

高い精度で放射線を照射することが可能で、誤差精度 2 ミリ以内の正確な放射線照射を実現した治療法。具体的な治療法は、定位放射線治療（SRS、SRT）、強度変調照射治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）など。

し

▶ 支持療法

がんそのものによる症状やがん治療に伴う副作用・合併症・後遺症による症状を軽減させるための予防、治療及びケア。

▶ 社会福祉士

社会福祉士及び介護福祉士法（昭和 62 年法律第 30 号）で定められた国家資格。福祉の相談援助に関する高度な専門知識・技術を有し、介護・家事などの日常生活に支援の必要な方の相談に対する助言や利用可能な制度・地域のサービスの紹介をはじめ、サービスの利用調整や医師等の関係者との連絡調整など、相談者を支え、医療費や就労等の社会生活に関するさまざまな相談支援を行っており、福祉や医療の相談援助の場において重要な役割を担っている。

▶ **周術期**

手術中だけでなく入院から手術そして回復までの、手術前、手術中、手術後を含めた期間。

▶ **終末期**

治癒不可能な病気に冒され、回復の見込みがなく死が避けられない患者の状態で、数日から数カ月のうちに死亡するだろうと予期される状態になった時期。患者が終末期にあることは、主治医を除く複数の医師によって判定・確認される必要がある。

▶ **受動喫煙**

室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされること。

▶ **小児がん拠点病院**

小児がんの医療及び支援を提供する地域（近隣都道府県を含む）の中心施設として、厚生労働大臣が指定した病院。地域における小児がん医療及び支援の質の向上のけん引役を担い、質の高い医療・支援を提供するために一定程度の集約化が必要であることから、令和5（2023）年4月現在、全国で15箇所整備されている。

▶ **職域**

事業所等で働く人を対象としたもので、労働安全衛生法や健康保険法に基づき、健康診査や保健指導が行われている。

せ

▶ **（がんの）生存率**

がんと診断されてから、一定期間（通常は5年）後に生存している患者の割合。がん医療を評価する重要な指標である。

ち

▶ **地域包括支援センター**

市町村が設置主体となり、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等の配置による3職種のチームアプローチによって、住民の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことで、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設のこと（介護保険法（平成9年法律第123号）第115条の46第1項）。全国に5,404か所ある（令和4（2022）年4月末時点）。

▶ **地域連携クリティカルパス（地域連携パス）**

手術を実施した施設と退院後に手術後の治療や経過観察を行う施設が共通して使用する診療計画書で、施設間で共有することで切れ目のない医療の提供につながっている。

▶ **治験**

現在標準的に行われている治療よりも、より良い治療法を確立することを目的として、患者の協力を得て、新しく考案された治療法や新しい薬が病気に対して有効かどうか、また安全かどうかについて調べること。特に、新しい薬としての承認を得ることを目的として、未承認の薬を用いて実施する臨床試験を治験という。

な

▶ ナッジ理論

「ナッジ」とは「ひじで軽く突く」という意味。行動経済学上、対象者に選択の余地を残しながらも、より良い方向に誘導する手法。

▶ 難治性がん

早期発見が困難であり、治療抵抗性が高く、転移・再発しやすい等の性質を持ち、5年相対生存率が改善されていないがん種。膵臓がんやスキルス胃がんなど。

に

▶ 二次保健医療圏

地域における基本的な保健医療体制の整備から、全県的な高度・専門医療の確保まで、それぞれに必要とされる機能の整備と医療資源の有効活用を図るために設定する「圏域」のうち、保健医療の基本的単位のこと。市町を単位とする「一次保健医療圏」、保健医療の基本的単位としての「二次保健医療圏」、全県を単位とする「三次保健医療圏」があり、「二次保健医療圏」は県内に7圏域が設定されている。

▶ 妊孕（にんよう）性温存

手術療法、放射線療法、薬物療法による影響で妊娠することができなくなることもあるため、がんの治療前や治療中に生殖機能を温存すること。

ね

▶ 年齢調整死亡率

年齢構成が基準人口と同じだったら実現されたであろう死亡率のこと。がんは高齢になるほど罹患や死亡が多くなり、年齢構成が異なる集団でがんの死亡率を比較するためには、年齢構成の影響を補正する必要がある。その方法の一つとして用いられるもので、年齢階級別に死亡率を計算し、基準とする人口集団の重みをかけあわせて算出する。一般に国内での統計においては、基準人口は昭和60（1985）年日本人モデル人口が用いられているが、令和2（2020）年から、平成27（2015）年モデル人口が設定されている。通常、人口10万当たりの数値で表す。

年齢調整死亡率＝{(観察集団の年齢5歳階級別粗死亡率) × (基準人口の当該年齢の人口) の各年齢階級の総和} / 基準人口総数

ひ

▶ ピア・サポート（ピアサポーター）

患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること（人）。

▶ 標準的治療

科学的根拠に基づいた観点で、現在利用できる最良の治療であることが示され、ある状態の一般的な患者さんに行われることが推奨される治療。一方、推奨される治療という意味ではなく、一般的に広く行われている治療という意味で「標準的治療」という言葉が使われることもあるので、どちらの意味で使われているか注意する必要がある。なお、医療において、「最先端の治療」が最も優れているという訳ではなく、最先端の治療は、開発中の試験的な治療として、その効果や副作用などを調べる臨床試験で評価され、それまでの標準治療より優れていることが証明され推奨されれば、その治療が新たな「標準的治療」となる。

▶ 病理診断

病変の一部（組織）や細胞を薄く切り出して、顕微鏡で調べる「病理検査」により、病気の診断を行うもの。特にがんでは最終診断となり、治療方針を左右する重要な役割を担っている。

▶ ひろしま医療情報ネットワーク（HMネット）

医療機関の機能分担や連携を進め効果的な医療連携を全県で行うために、ICTを活用した患者の診療情報などの医療情報を複数の医療機関で共有するネットワーク。

▶ 広島がん・生殖医療ネットワーク（HOFNET）

広島がん・生殖医療ネットワーク（Hiroshima Onco-Fertility Network、HOFNET ホフネット）は、若年がん患者に妊孕性（にんようせい）温存療法等に関する支援を行うために設立された、がん治療施設と生殖医療施設の連携組織のこと。構成は、がん治療施設13施設、生殖医療施設4施設及び広島県。

▶ 広島がんネット

がんに関する予防、検診、医療、緩和ケア、情報提供・相談支援やがん登録の各分野の情報を総合的・体系的に提供するため平成21（2009）年4月に開設したがん情報サポートサイト。

（ホームページアドレス <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gan-net/>）

▶ 広島県がん医療ネットワーク

検査・医療施設が緊密に連携して切れ目のない医療を提供するため、5大がんについて構築したネットワーク。参加施設は、部位ごとに設定されている施設基準を満たしている。

▶ 広島県県民健康意識調査

県民の生活習慣の状況や身体状況等を把握し、県民の健康づくり及び生活習慣病予防に係る基礎資料を得るために実施する調査。

▶ 広島県地域保健対策協議会

県内における医療、福祉の向上や提供体制の整備など、県民の健康の保持、増進に寄与することを目的に、保健・医療・福祉に関する事項を総合的に調査、協議を行う場として、広島大学、広島県医師会、広島県、広島市により設置された団体。

ほ

▶ 放射線療法

病変（がん）に治療用の放射線を当て、がん細胞を死滅させる治療。

▶ 訪問看護ステーション

かかりつけの医師の指示に基づいて看護師が訪問し、難病や重度障害あるいは末期がん患者などに対し、住み慣れた家で療養しながら生活できるよう看護サービスを提供する事業所。

め

▶ メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満を共通の要因として、高血圧、脂質異常、高血糖のうち少なくとも2つ以上を合わせ持った状態。糖尿病や循環器疾患などの生活習慣病を発症する可能性が高いとされている。

や

▶ 薬物療法

がん細胞の増殖を防いだり、がん細胞そのものを破壊する作用をもった抗がん剤を用いた治療法。がんが増えるのを抑えたり、成長を遅らせたり、転移や再発を防いだり、小さながんで転移しているかもしれないところを治療するためなどに用いられる。「化学療法」、「分子標的治療」、「ホルモン療法（内分泌療法）」が含まれる。

り

▶ 両立支援コーディネーター

治療と仕事の両立に向けて、支援対象者、主治医、会社・産業医など、関係者とのコミュニケーションが円滑に行われるよう支援する者。独立行政法人労働者健康安全機構が養成研修を行っている。

A

▶ ACP

(Advance Care Planning の略) 将来の意思決定能力の低下に備えて、治療方針・療養についての気がかりや、自分が大切にしてきた価値観を、患者、家族と医師が共有し、ケアを計画する包括的なプロセス。

▶ AYA世代

(Adolescent and Young Adult の略) 15歳から40歳未満の思春期世代、若年成人期を指す。

H

▶ Hi-PEACEプロジェクト

(Hiroshima Pancreas Cancer Early Diagnosis with Collaboration and Examination の略)
「平和」の地である「広島」で、大学・医師会・行政等の関係者が連携し、すい臓がんになっても早期に治療し、安心して生活できる社会を目指して立ち上げたプロジェクトのこと。

▶ HPV (ヒトパピローマウイルス)

「子宮頸がん」の原因とされるウイルス。性経験のある女性であれば50%以上が生涯で一度は感染するとされている。

P

▶ PDCAサイクル

事業活動における生産管理や品質管理等の管理業務を円滑に進める手法の1つ。Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。

T

▶ Teamがん対策ひろしま

平成26(2014)年から開始した、がん予防、がん検診、がんに罹患した従業員への就労支援、がん患者団体への支援等のがん対策に、県と協働して主体的かつ積極的に取り組む企業を登録する広島県独自の制度。